

◆◆◆◆◆
今号のわだい

- 【1面】医療研集会～地域へ広げよう
10・24いのちまもる集会
11・2なくせ原発ふくしま集会
- 【2面～3面】
医療研～リレー報告・分科会

全厚労ニュース

全国労働組合連合会
厚生連〒110- 東京都台東区入谷
0013 1-9-5
TEL 03-3874-3591
FAX 03-3874-3593
発行日 毎月 20日
定 価 30円

真剣なまなざしで報告を聞く参加者のみなさん

要求としてまとめて経営者におつづけていく事も組合として大事ですが、地域の人の率直にぶつけて対話することで運動が広がっていく。医療の問題は病院の中だけで解決できる事ばかりではなく文化活動などにも自分たちの専門分野を活かして

参加して行きましよう」と地域に出ていくことの大切さが強調されました。

住民とともに実践した3つの報告

リレー報告として奈良・生駒の「市民参加の病院運営を目指して」、茨城の病院給食委託・保育所委託に反対してたたかった「直営のこだわりを地域に問いかけて」、三重の鈴鹿厚生病院で行なわれている「精神科病院を地域にひらく取り組み」の住民とともに実践した3つの報告が行なわれました。(詳細2面)



輪になって歌った夕食交流会恒例のうたごえ

今回は「社会の一員である私、現場から出来ること」をサブテーマに5つの分科会に分かれて行ないました。初日は全体集会を行い、岡部副委員長・医療研運営委員長が開会のあいさつをし、開催地の荒木岐厚労執行委員長が現地歓迎のあいさつをしました。

リラクスタイムでは新たに運営委員になった岐阜

の高木さんから、スライドとともに軽快なトークで岐阜の紹介を行ない、長旅で疲れていた参加者の気持ちをすっきりほぐしました。

専門分野を活かして対話しよう

茂原執行委員長・医療研事務局長の基調報告では「自分たちの職場の状況を



今回ご参加いただいた鹿児島厚生連病院の皆さん

2日目は5つの分科会(3面に詳報)に分かれて討論と全国の活動を交流。夕食交流会では各分科会から出し物を準備し、第4分科会の寸劇「水戸黄門道中記」高萩・手綱宿の巻」や第1分科会の「まるまるもりもり体操」、第5分科会の「食事憲法」などが多彩に披露され、会場を沸かせました。

今回、全厚労未加盟の鹿児島厚生連病院からも3人ご参加頂き、広がりを感じさせる集会となりました。

11月15・17日、全厚労は第30回医療研究集会を岐阜県・ぎふ長良川温泉「ホテルパーク」にて開催、11県から125名が参加し、活発な意見交流を行ないました。

地域に率直に語り、運動をひろげよう
第30回医療研究集会

討論と多彩な出し物で交流深める

なくせ! 原発ふくしま集会に
全国から7000人が参加

11月2日、福島市内で「なくせ! 原発ふくしま集会」が開かれ、全国から7千人の人たちが集まりました。「地球を汚すな!」「ふるさと返せ!」などと書かれたプラカードや各地からのアピールで、脱原発と震災復興の思いを一つにしました。



「地球を汚すな!」
「未来を守って!」
とアピール

ふくしま復興
共同センター・
子どもチームの
みなさんの訴え



思いをいつ共にするか? 今でしょ!

10・24集会で林先生からエール

10月24日、冷たい雨の降る日比谷野音で3200名が参加(全厚労135名)して「いのちまもる国民集会」が開かれました。ゲストの林修先生(東進ハイスクール)からは、「良い国をつかっていくために教育という自分のフィールドで頑張りたい。皆さんも同じ思いだと思う」「思いを共にするのは? 今でしょ!」とエールを頂きました。集会後は独自の横断幕やプラカードを掲げて銀座へパレードしました。



ゲストの林先生

特製横断幕を掲げて
パレード(茨厚労)



雨の中でも元気に
シュプレヒコール



市民参加の 病院運営を目指して

生駒の地域医療を育てる会 長島稔さん



8年前に国保の病院が閉院となり、市民運動を起しました。現在の病院建設までは毎年のように障害にぶつかりました。

今年はやベノミクスによって資材費が高騰し、予定価格では応札が出ず、予算を積み増してようやく8月に起工式を迎える事ができました。

病院運営の 成り手

市立病院を一切持たない生駒市では運営のノウハウがなく、公設民営として公募し徳州会に決めました。直後、それまで容認していた医師会が猛反発し、態度を180度変えてしまいました。県の審議会で病床を与えないとされましたが住民署名に取り組み、知事へ要望を出して建設が認められました。

運動の 第2ステージ

現在の運動は「要望」型から「提案と協働」型の第2ステージに移っています。例えば、欧米ではまずは「かかりつけ医に行つてから病院へ」と言う事が一般的になっていますが日本では「患者の選択次第」として、すぐに病院に行つてしまう「コンビニ受診」が問題になっています。直接患者に対応する医療機関側から「コンビニ受診は止めましょう」とは言いにくいので市民運動・組織の仕事と取り組んでいます。

市民が運営参加 する為に

今後の課題は病院運営にどう市民が参加するかです。管理運営協議会を設け、公募市民が参加できるように基本協定書に盛り込ませました。今後公募が行なわれますが、市長が決定者になると市長の意に沿わない人は選ばれないので、議会が選ぶ仕組みを入れたいと働きかけています。

地域医療 連携のために

「かかりつけ医」について開業医がどれだけ病院と連携する意識を持ってくれるかが鍵になると考えています。

開業医は病院ができると患者を取られてしまうので反対されます。生駒に大学病院(近畿大学)ができた時には「病院は3次救急がメイン。1次は診療所」と説

特別報告②

直営のこだわりを 地域に問いかけて

茨厚労高萩支部 菅野弘子

高萩の栄養部委託と取手の保育所委託の話があったのは、12年1月中旬のこと。どちらも支部長交代があり、その支部長と該当職員に対して委託決定の話がなされました。しかも高萩の給食は10月から、取手の保育所は4月からという性急さで、3月の春闘団交で、保育所は1年延期して協議することになりましたが、給食は



2日連続の病院前ストライキ

高萩協同病院は、創設66年であつては炭鉱で支えた街にあります。01年に新築の話が出たものの02年の新市長が援助しないと決定、厚生連もそれでは新築できないとなりました。しかし市民の存続要望が強く、住民運動が起こり労組も加わって存続の危機を脱しました。06年に新築移転、市から土地の提供と毎年運営補助金も出され、「準市民病院」として「おらが町の病院」と受け止められています。3・11の時は、ロビーにも被災者を受け入れ、地元にも被災者を受け入れ、地元にも貢献してきました。食料や燃料も優先的に回してもらいました。移転前は、海抜5メートルの場所にあつ

て、もし新築移転していなかったらとぞっとしました。今の職場に6年前もいた人は40%くらいしか残っておらず、当時の運動のことは、知らない人がほとんどです。私にとつても初めての運動でしたが、市民の方々は覚えていて反応はとても良かった。「JA病院でありながら給食委託はあり得ない」「患者のためには、直営が良い方が決まっている」との声が多数でした。

しかし給食現場では、職員が組合に入るのに半年がかりました。これまでも「給食の質」の問題は問われていて、多くの食材が「冷凍」だったり、他の職員と当事者との間にも亀裂がありました。しかし運動の中でお互いを知り、労働者としての団結が深まってきました。

特別報告③

精神科病院を 地域にひらく取り組み

三厚労鈴鹿厚生支部 椎葉 衛

鈴鹿厚生病院は昭和40年に旧鈴鹿赤十字病院の後を受けて精神科・神経科の専門病院として開院しました。従来精神病院にあった閉鎖的なイメージを脱し、精神科病院を理解してもらうきっかけとして、病院祭(組合支部と共催)と精神科リハビリのひとつであるレクリエーション活動をほぼ毎月、地域に開放し、心の病気と精神科病院への理解を深めてもらう取り組みを進めています。これらを写真で紹介します。

病院祭での
つきたて
おもちが人気



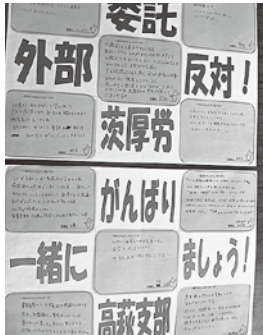
子どもたちに
大人気の
カメラメ大レース



花フェスタで
地元の幼稚園児と
花壇づくり



精神疾患理解のためのパネル



給食現場に贈られた
応援メッセージ

106人が集まって、明け方まで10時間に及ぶ交渉を行いました。翌日と翌々日には、2日連続のストライキを実施し、延べ700人が参加。2日連続のストライキは茨厚労でも初めてでした。

結局、給食委託の阻止・延期は出来なかったものの、次に繋がる運動が出来ました。取手の保育所では、職員も組合に入つて業務改善に取り組み、昨年末に直営継続を勝ち取りました。より良い仕事、仲間づくり、仕事に責任を持つ「労働者の自覚」に目覚めています。

全体を通して労働者の連帯や組合加入の推進が進み、栄養科も助手への職種転換があつても頑張つて働き、退職者へも加算した金額を支払わせました。今後は地域と共にある病院として農協病院らしく、労働組合の力量も高めていきたいと思っています。

市議会でも「地産地消での地域振興と、地域医療を充実する立場での病院運営を働きかける」陳情が採択されましたが、厚生連は「何の強制力もない」と無視。委託間際の団体交渉では、

医療研究集会分科会報告

第1分科会

「住民といっしょに運動する」

第1分科会では5つの活動報告を聞きました。「高山厚生病院と地域医療を守る会」代表の下屋さんの活動報告では、岐厚労の方々もその会の存在を知りませんでした。この岐阜での医療研の機会に知ることができて、地域へ目を向けるということの大切さを気づかされた。

また、秋厚労鹿角支部の報告では、精神科常勤医を確保するために全国の道の駅に「医師を求めパンフレット」を配置する活動聞き、積極的に行動する秋厚労の姿に勇気づけられました。

全体を通して、地域とつながるため、分科り合うために行動を起こすことの大切さ。それも直接、住民の声を聞くことが重要だということを感じました。病院職員として住民をこれから目線で見るのとなく、医療は住民の「医療は住民のもの」という意識をもつて今後の活動に活かしていきたいと感じました。



第3分科会で職場の悩みを話し合いました

も直接、住民の声を聞くことが重要だということを感じました。病院職員として住民をこれから目線で見るのとなく、医療は住民の「医療は住民のもの」という意識をもつて今後の活動に活かしていきたいと感じました。

第2分科会 「地域に出るとは」

第2分科会では、新潟・糸魚川病院から「介護実態調査」、岐阜の西濃医療生協の松岡さんから「医療生協の活動について」、長野・松代病院から「通院手段の調査について」、それぞれの報告を聞きました。

活動報告のあと、「地域と病院」をテーマに討論を

集める取り組みについての報告を伺いました。報告の後4つのグループに分かれ今置かれている職場環境・状況・それに対する悩みや解決策を話し合いました。

参加者からはどの職場も同じような悩みを抱えており、自分のところだけじゃないんだ!!ということが分かり合えました。そして様々な悩みに対して自分ひとりじゃない、仲間と一緒に活動し一人ひとりの対話を通して良い方向にもっていききたいという意見が多数ありました。

第3分科会

「働く者どうしのわかり合い」

第3分科会では茨厚労・土浦支部の「看護師わくわく対話の会」の活動や秋田の職場に向き職場の声を

第4分科会

「病院を地域にひらく」



第4分科会の寸劇での一幕

実践報告は三重・鈴鹿厚生病院の「認知症病棟への園児訪問」を新しい取り組みとして、長野からは「佐久総合病院の再構築について」、茨城からは「取手医療センターの保育所委託反

対と直営化の取り組み」の3つが報告されました。また寸劇として「水戸黄門道中記」高萩・手綱宿の巻」の練習を行ない、楽しみながら一つのものを作り上げる感動を体験しました。

第5分科会

「いのちを育む食と環境」

岐阜農民連の中島新吾さんの「食の安全とTPP」の講義とDVD「フードインク」の鑑賞を通し、世界の食糧事情や日本の農業・農業について学習を行ないました。また茨厚労の安本真理子さんから紙芝居による委託問題やTPPの報告がありました。

それぞれの学習に対しグループディスカッションを



第5分科会の食事憲法の発表

めることの大切さを考える2日間でした。

参加者の感想（集会アンケートより）

●基調報告について

医療研究集会は地域とのつながり、住民との結びつきを探る専門部であり、日々の仕事をこなしながら地域の事も分かつとする努力が必要だということを改めて感じた。（静岡）

基調報告を聞くことで医療研究集会の3日間の目的を考えることができた。できる、できないではなく「やるか、やらないか」だと思った。（長野）

現在の日本の状況とどういった視点を持たなければならぬかが良く分かりました。（茨城）

●リレー報告について

精神科病院がこれほど開放的に行なわれていることに時代を感じ、地域とのかかわりも大切なんだなあと思いました。（広島）

●分科会について

西濃医療生活協同組合の診療所を作る話が興味深かった。地域の力の大きさを

く事ができ、良かった。なかなか他県の状況など知ることができないのでこの様な機会があつてよかった。（長野）

各県の取り組み、生駒のとりくみに感じました。感動的でした。三重・鈴鹿の精神科を地域にひらく取り組みで、内容もりだくさんの企画にビックリし、すごいなあと思いました。職員の皆さんの準備は大変だろうなと思いました。子ども達参加の企画がとても多く、そうすれば必然的にその親も参加する。子ども達の声や笑顔がある場所は明るく開放的でみんなが集まってくるよ。とても感じました。（茨城）

●分科会について

西濃医療生活協同組合の診療所を作る話が興味深かった。地域の力の大きさを

●分科会について

西濃医療生活協同組合の診療所を作る話が興味深かった。地域の力の大きさを

●分科会について

西濃医療生活協同組合の診療所を作る話が興味深かった。地域の力の大きさを

●分科会について

西濃医療生活協同組合の診療所を作る話が興味深かった。地域の力の大きさを

●分科会について

西濃医療生活協同組合の診療所を作る話が興味深かった。地域の力の大きさを

●分科会について

西濃医療生活協同組合の診療所を作る話が興味深かった。地域の力の大きさを

●分科会について

西濃医療生活協同組合の診療所を作る話が興味深かった。地域の力の大きさを

全厚労本部・専従募集

これからの全厚労運動を担う人材を求めます。

採用人員	1名
勤務地	東京都台東区・全厚労本部
労働条件	組合規定による（応相談）
業務内容	①各種会議・集会の準備・運営、資料作成 ②全厚労ニュース、宣伝物等の作成 ③その他、書記局業務全般
募集要件（優遇）	①医療労働運動に情熱ある方 ②PCソフト操作に長けた方
応募書類	履歴書、志望動機書（800字程度）、健康診断書
応募締切	2014年1月15日（当日消印有効）までに郵送
面接日時	追って連絡
問合先	全厚労本部（松尾）電話又はメールにて

メール matsuo@zenkouro.org

帰って来た 各県この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。
第80回は埼玉と山口にお願いしました。



埼玉 栗原 由美さん

久喜総合病院の看護師、栗原由美です。9月から、埼玉労副執行委員長になり、支部書記長も兼務しています。
3年前、夫の転勤に伴い横浜の自宅を後にし、開院したばかりの久喜総合病院に入職しました。生まれ育った秋田が思い出されるのどかな久喜で働いています。
入職4か月目で労組執行委員となり、3年目になります。当初は何も分からなかった労組も、活動していく中で少しずつ問題点が見えてきました。増床・移転で開院した病院なので、職員の大半は開院後の採用です。まだ若い組織で、大きな組織の運営にも慣れていないので、基礎からの丁寧な活動が必要です。この10月、すべての病棟の稼働にこぎつけましたが、厳しい状況が続いており、その中で頑張っている仲間たちと、笑顔で働ける職場を目指していきます。
真面目に、粘り強く、どっしりと、おばさんパワー全開で頑張ります。応援よろしくお願いします。

山口県から、長門総合病院の来島祐太さんを紹介します。普段の来島さんは、診療情報管理士として仕事をこなしているだけでなく、時には診療情報管理室を飛び出し、上司と経営面や病院のシステムについて話し合ったり、部下には忙しい中時間を割いて仕事を教えてくださったりする、とても頼もしい方です。



山口 来島 裕太さん

また、先日事務員の送迎会の企画で行なったアンケートでは『医師と積極的にコミュニケーションをとっている人ランキング』で見事1位に輝かれました。年代、職種を問わず、信頼関係を築くことができるのが来島さんの魅力の一つです。
そんな姿は組合活動においても同様で、スタッフ一人ひとりの意見や想いを聞き、どんな小さな声にも耳を傾けてくださいます。問題が起これば、その解決の為に、上司に対しても臆することなく直接交渉されている姿をよく目にします。
仕事も組合活動も、来島さんにお願ひすれば何でも解決してしまいます！
ここまでの話では、仕事バリバリ、組合バリバリに聞こえますが（実際そうですが）、新婚の来島さんは、家に帰ると奥さん一筋、家庭をととても大切にされているようで、奥さんの為に家事、洗濯、マッサージなどをされているそうです。公私共に魅力いっぱいの来島さん。これからも組合活動を通して病院スタッフを力強く引っ張って行って欲しいです。

団 結 共 済

みんなで掛けて活動をサポート

日本医労連共済には個人ごとに参加する物とは別に組織一律で加入する組織共済があります。組合員の結婚・銀婚や子どもの入学・卒業など節目を祝う慶弔共済はこのコーナーでもご紹介してきましたが今回は組合の活動をサポートする団結共済をご紹介します。

団結共済は労働組合の機関（大会や中央委員会など）の方針に基づく活動や行事のあいだ（集会などへの往復も含む）に事故によって怪我をし、入院や死亡した場合に給付がされます。組合員本人だけではなく、運動会など配偶者や子どもが参加した場合も対象になります。

全厚労では1口加入（各県で上積み加入をしている事も）していますので、万が一組合の活動中にけがをした場合はご連絡ください。



給付の例（1口・月額10円の場合）

共済事由 組合活動中の不慮の 事故によるもの	組合員本人	配偶者・子ども
死亡	150万円	75万円
後遺障害 (1級～14級)	150万～6万円	75万円～3万円
入院（1～180日）	日額1,000円	日額500円
休業（1～180日）	日額500円	日額250円

読者の声

「厚生連解散に対する栃厚労の取り組み」を読ませていただきました。湖東総合病院の取り組みと重なる状況ですね。湖東病院は来年5月目指して改築中です。地域の力が本当に大切だと思います。（秋田）

栃木県厚生連がなくなってしまう事は本当に残念です。T

定期大会の討論の記事を読んだら、私の働く病院では夜勤8回まで、50歳以上は希望で6回にすることも可能で、夜勤協定が守られています。しかし近隣の病院では10～20回くらい、また

PP参加になると厚生連系は資金が減ると聞きました。一人ひとりを大切に、離職者が出不いよう、頑張ってもらいたいです!!（富山）

全厚労二ニュース、毎月楽しみにしています。各県この人の記事はいつも笑顔で元気をもらっています。福島皆さん頑張ります！私たちも元気で頑張ります！（三重）

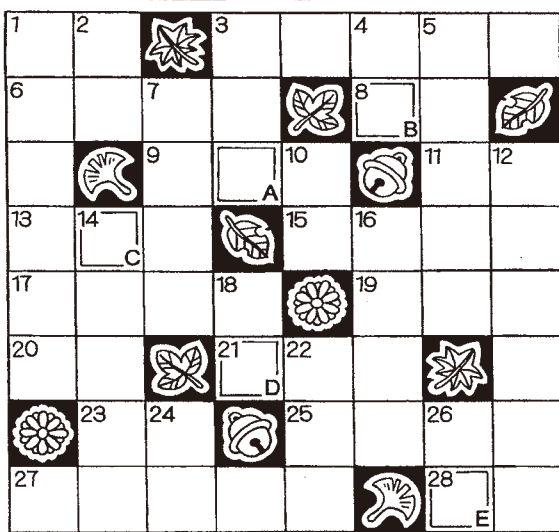
看護師が働きつづけられる職場として夜勤協定はとても重要です。夜勤は3交替、1人月8回ですが57歳になると1人月6回になるところもあります。これからがんばっていきましょう。（広島）

育休から復帰してはや半年、今になって組合で勝ち取った大事な半日休暇のありがたさが身にしみています。（福島）

別のところは2交替で6回行なっているのと同じです。気の毒で仕方ありません。それと同時に私たちは組合員の皆様の力で守られている事に感謝しております。（福島）

ザ・クロスワード

出題●モロゾミ勝



答え

A B C D E

★答えは15ページ

【問題】二重ワクの文字を、A～Eの順に並べてできる言葉は、なに？

タテのカギ

1 秋なのに春のような暖かい日
2 オリンピックの1等はメダル
3 一休さんが得意なもの
4 石川県の……半島
5 野外でイモを煮ます
6 発声可能な声の高低の範囲
7 粗大……。可燃……。竜巻の原因にもなります
8 多くのセミが鳴きだてる声を時雨の音に見立てた言葉
9 防音や耳の防水に使います
10 4大悲劇の一つ……主秋刀……でサンマと読みます。……の漢字の訓読みは？
11 カボチャは……。科野菜日本人の主食

当選者10名様に図書カードを差し上げます
クロスワードパズルの答えと本紙の感想などを添えて下記あて先へお送りください。
当選の結果は発送をもって代えさせていただきます。（9月号の答え：イワシグモ）